

橘こどもセンター 建設工事始まる

橘幼稚園と橘保育所を統合する橘こどもセンターの建設工事が始まりました。工事着工に先立ち、1月11日、建設地の旧橘小学校跡地で安全祈願祭が執り行われ、岩浅市長をはじめ関係者約30人が出席して、工事の安全を祈願しました。

新設する橘こどもセンターは、鉄筋コンクリート造2階建、延べ床面積1180平方メートル、0歳～5歳児の定員90人（最大116人）を受け入れることができます。屋内施設には、保育室や多目的室、遊戯室、子育て支援室などが完備されます。また、屋外には遊具や砂場、倉庫のほか、送迎用の駐車場も整備されます。

総事業費は約4億3千万円で、平成25年3月の完成をめざします。



建設地で行われた安全祈願祭のようす。

勤労青少年がパティシエと ケーキ作りを楽しむ



受講者においしい生クリームの作り方を説明する棚橋さん。

市内に居住または職場を有する35歳までの勤労青少年を対象に、年間約7回の短期講座を開催している勤労青少年ホームで、11月18日、恒例のクリスマスケーキ作りが開催され、15人がパティシエとのケーキ作りを楽しみました。

講師は、椿泊町で菓子店を経営されている棚橋俊介さん（46歳）。この日は、生クリームのデコレーションケーキ作りに挑戦。参加者は、バランスのとれたこくのある甘さ控えめの生クリームの作り方などを学びながら手際よく作業を進め、オリジナルケーキを完成させていました。

棚橋さんは、平成12年からお菓子作りの出前講習会を始められ、その回数は昨年12月で100回を数えました。「持っている知識や技術を全部出して、お菓子作りの魅力を伝えていきます。出来上がった時の笑顔を見るのが楽しみです。毎回全力投球で臨んでいます。」と棚橋さん。お菓子作りを通じて幅広い年齢層の方と交流を深めています。

岩脇公園に浮かび上がる七光 地域住民が願いを込めて灯す



灯籠を灯す新田文一さん。

羽ノ浦町岩脇公園の環境整備に取り組む「岩脇公園を美しく志隊」の皆さんが、12月12日、香風台公園（展望台）から経塚展望台に通じる遊歩道に、7つの灯籠を設置しました。夕暮れになるのを待って灯りが灯されると、妙見山に7つの光が浮かび上がり、見守っていた会員から歓声が上がりました。

岩脇地区の妙見山には「取星寺」と「明現神社」があり、古くから星に深くかわる伝説が残されています。今回設置された7つの灯籠は、人々の守り星で七曜の星と称される「北斗七星」に見立ててつくられました。ほかにも、岩脇地区が7つの傍示からなることや、参道に7つの石灯籠があったことなどから、「七」へのこだわりがうかがえます。

設置した灯籠は、平成22年に解体された青雲城に使われていたもので、市販の懐中電灯を取り付け、支柱は桜づつみ公園の桜木に使われていたものを再利用しました。将来的には太陽光発電によるLED灯を設置したいと夢を膨らませています。

願い事が叶う遊歩道に――。眼下的那賀川からも目視できる七つの光は、岩脇公園の新たなランドマークとして人気を集めています。